

令和 8 年度第 1 回社会教育委員の会議

令和 8 年 5 月 2 2 日（金）

午前 1 0 時 0 0 分開会

開催日時	令和 8 年 5 月 2 2 日	開会 1 0 時 0 0 分 閉会 1 1 時 4 5 分	
場 所	小金井市役所第二庁舎 8 階 8 0 1 会議室		
出席委員	議 長 笹井 宏益 副 議 長 金澤 大恵 委 員 新井 しのぶ 委 員 藤森 光一 委 員 北澤 隆司	委 員 渡邊 ふき子 委 員 伊丹 文男 委 員 池田 佳代 委 員 小林 浩 委 員 鈴木 哲也	
説明のため出席した者の職氏 名	生涯学習部長 平野 純也 生涯学習課長 濱松 俊彦	図書館長 三浦 真 公民館長 鈴木 茂哉	
事務局	生涯学習係長 最所 拓也		
傍聴者人 数	0 人		

日程	議 題	
第 1	議 題	(1) 会議録の承認について (2) 生涯学習部事業に係る令和7年度総括と令和8年度の展望について (3) 社会教育関係団体への補助金交付について (4) 地域文庫補助金交付について (5) 令和7年度都市社連協交流大会・社会教育委員研修会について（報告） (6) 令和8年度社会教育委員の会議等日程について (7) 都市社連協ブロック研修会の内容について (8) その他

笹井議長

皆さん、おはようございます。

定刻になりましたので、令和８年度第１回目の社会教育委員の会議を始めたいと思います。

ではまず、事務局のほうから資料の御説明をお願いいたします。

最所生涯学習係長 事務局です。

本日、次第と次第の２番に記載してございます１から６の資料が、資料内容となっております。それと、委員の皆様へ配付しております資料、月刊こうみんかん３、４、５月号、図書館だより８５号、スポーツ推進委員の活動記録、東京の地域教育、それと、第５次生涯学習推進計画、こちら概要版ということで、お配りしております。あと、社教連会報です。あと、都市社連協定期総会で御欠席された方だけに配付しております、社会教育委員の活動記録というところになってございます。こちら、定期総会欠席者の方だけに配布してございます。

不足しているものがありますでしょうか。大丈夫でしょうか。なければ隨時言っていただければと思います。よろしく願いいたします。生涯学習推進計画につきましては、皆様の御協力をいただきまして、無事策定することができましたので、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

笹井議長

ありがとうございました。

生涯学習推進計画、すごいスピード感を持ってやってきたと思いますが、無事完成して本体と概要版というのは、お示しできるようになってよかったと思います。よかったなと個人的には思っています。皆さんの御協力に本当に改めて感謝申し上げたいと思います。

それでは、本日は令和８年度第１回目の会議ですので、事務局のほうから、管理職の方の人事異動の報告をまずいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

最所生涯学習係長 事務局です。

令和８年４月１日付人事異動について、管理職の異動は今回ござ

いませんということで、今年度については、全て残留ということになってございます。

以上です。

笹井議長

ありがとうございました。

では、議題のほうに入っていきたいと思います。

議題の（１）番目です。会議録の承認についてであります。

事務局のほうからお願いいたします。

最所生涯学習係長 資料１を御覧ください。

令和８年１月２３日に開催しました令和７年度の第６回会議録をお配りしております。事前に皆様のほうに確認をしていただいたというところで、本日この場を借りて承認いただいた後、ホームページに公開させていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

笹井議長

ありがとうございます。

何かありましたら御指摘いただきたいと思います。なければ、これで承認をしたいと思います。承認をしたいと思います。よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

笹井議長

ありがとうございました。

その次の議題の２番目ですけれども、生涯学習部事業に係る令和７年度総括と令和８年度の展望についてであります。

これも事務局のほうからお願いいたします。

平野生涯学習部長 それでは、私のほうから御説明させていただきます。

初めに、令和７年度は、東センターの空調機器が夏前に突如故障し、都合３か月間もの間、臨時休館することとなり、市民の皆様には大変御不便、御迷惑をおかけし、申し訳ございませんでした。

現在、生涯学習部の各施設は老朽化が進んでいるため、日常的な点検を行いながら、限られた予算の中で緊急性の高い施設や設備から順に改修等を進めてございます。できる限り御不便・御迷惑をお

掛けしないよう、そして何より事故等が起きないように、引き続き努めてまいりますので、御理解と御協力をお願い申し上げます。

それでは、少し長くなりますが、生涯学習部の各課の主な事業について、令和7年度の総括と令和8年度の展望を申し上げます。

まず、生涯学習課事業について、令和7年度の総括でございます。

第5次生涯学習推進計画につきましては、大変タイトなスケジュールでしたが、社会教育委員の皆様の御協力により、無事策定することができました。短い期間での策定でしたが、教育委員会の新たな教育目標・基本方針を踏まえた意欲的な計画として策定することができました。計画は策定がゴールではなく、ここからがスタートとなります。引き続き、施策の推進等について様々な御協力をお願いいたします。完成した計画は、本日机上に配付させていただきましたので、後ほど御覧いただければと思います。

また、東京都市町村社会教育委員連絡協議会における幹事市業務につきましても、1年間の役目を終え、無事に次期幹事市へ業務を引き継ぐことができました。議長、副議長におかれましては、都市社連協の役員として、1年間御協力いただき、誠にありがとうございました。

次に、文化財事業につきましては、これまでの調査等で蓄積してきた成果を市民に還元するため、様々な事業を実施してまいりました。明日の小金井を担う子どもたちに、文化財を通じて郷土愛を深めてもらう取組として、夏休み親子向け事業「はじめての文化財～世界で一つの勾玉を作ってみよう」を新規事業として実施いたしました。また、第一小学校の建て替え工事に先立ち実施した発掘調査の期間中には、郷土学習の一環として、一小児童による現場見学会も行いました。なお、一小の発掘調査結果につきましては、11月に市民向け報告会も実施いたしました。

スポーツ振興事業につきましては、総合体育館大体育室及びプールの雨漏り対策等改修工事を行ったほか、総合体育館及び栗山公園健康運動センターの指定管理者変更を契機に、キャッシュレス決済の導入やフィットネスマシン、プールロッカーの入替えを行い、ハード面・ソフト面両面において、利便性・機能性の向上を図ることができました。

このように、令和7年度の生涯学習課の事業は、生涯学習振興の新たな未来を念頭に、計画の策定や、子どもたちへの啓発、環境整

備を行ったところでございます。

次に、令和8年度における事業の展望です。

生涯学習係では、近年の気候変動により避暑地である清里山荘においても暑さが厳しくなることから、特に高温多湿となる厨房に空調設備を設置し、従業員の労働環境の整備と食中毒事故の未然防止を徹底します。

文化財事業につきましては、無形民俗文化財調査業務を本格稼働させるため、調査検討委員会を立ち上げ、調査報告書を作成します。また、市史編さん事業で蓄積してきた成果をより多くの市民に還元するため、特に若年層にも小金井の歴史に親しんでもらえるよう、市史のビジュアル版である「見る・読む・調べる 小金井の歴史」の刊行の準備に着手します。

スポーツ振興の分野では、国が進める学校部活動の地域展開を踏まえ、運動部における実証実験を昨年度に引き続き行い、本市の実情を踏まえた方針・計画の検討に活用します。また、総合体育館大体育室照明のLED化工事、栗山公園健康運動センターのエレベーター改修工事のほか、上水公園運動施設グラウンド整備工事を40年ぶりに行い、室内外ともに多くの市民の方がスポーツに気軽に親しんでいただけるような環境整備に努めます。

次に、図書館事業について御説明いたします。初めに、令和7年度事業の総括です。図書館本館では、児童室書架の老朽化への対応やスペースの有効活用を行うため、大型絵本及び紙芝居等の書架修繕を、森林環境譲与税を活用して実施いたしました。また、現在運用している図書館システムが借上期間を迎えることから、その入替のための作業を進め、令和8年6月より新たなシステムを導入することとなりました。

そのほか、幼いお子さんと一緒に図書館を利用される保護者の皆様に館内での読書に一層親しんでいただけるよう、図書館貫井北分室において、短時間のお子様見守りサービスを開始いたしました。

このように、令和7年度の図書館では、東センターの空調故障の影響により急遽、東分室を閉館せざるを得ない状況もございましたが、臨時図書館を開設したり、新たな図書館システムの構築において市民サービスの向上を検討するなど、市民の皆様の読書環境の維持・向上に努めてまいりました。

続いて、令和8年度における事業展望です。

令和7年度に改定した小金井市教育委員会教育目標において、多様性の包摂を掲げたことを受け、この取組の一助として、本館内に「りんごの棚」コーナーを設置いたしました。このほか、前年度に続き、外国語絵本、児童絵本、児童文学、木製ブックトラック等の修繕を行ってまいります。

また、現在の図書館基本計画が今年度末に期間満了を迎えることから、令和9年度からの次期計画及び子どもの読書活動推進計画の策定を予定するほか、日本語を母語としない市民の子どもたちに向け、多文化共生事業として、外国語での読み聞かせ事業等を行います。

そのほか、ハード系の事業といたしましては、令和8年11月から、図書館本館において、公衆無線LANを利用したインターネット接続サービスを開始すべく、現在、準備を進めているところです。

最後に、公民館事業について御説明いたします。

初めに、令和7年度事業の総括です。

施設の維持管理事業といたしましては、貫井南センターにおいて、老朽化した館内空調設備を一新するとともに、緑分館視聴覚室の空調設備の入替えを実施いたしました。また、冒頭でもお話しさせていただいたとおり、年度の途中で東センターの空調が故障したことから、補正予算を措置し、東センターの空調設備を全て新しいものに入れ替えました。そのほか、緑分館テニスコートの整備、本館集会室における畳の表替えを実施いたしました。

次に、ソフト事業の面では、令和7年度から新たに体験学習等を通じて、子どもの豊かな人間性を育む少年教育事業を公民館本館及び貫井南分館で実施いたしました。本館では、地域課題解決に向けたコミュニティリーダー養成講座、市内の大学や周辺の町会自治会との協働・協力を得て、防災をテーマに実施いたしました。模擬避難所開設体験や自治会夏祭りへの参加など、地域コミュニティと青少年との関わりについて考えるよい機会となりました。また、貫井南分館では、併設する貫井南児童館と連携したドローン技術の体験や、革職人の指導による革のポーチづくりなど、魅力ある子ども体験講座を実施し、青少年の公民館参加を促すことができました。

このように、令和7年度の公民館では、老朽化が進む施設の計画的かつ迅速な維持管理対応を行いつつ、子どもの居場所としての役割も踏まえ、若い世代を公民館に呼び込む新たな施策を展開いたし

ました。

次に、令和8年度における事業展望です。

初めに、公民館への使用料導入についてでございます。第1回市議会定例会において、公民館条例の一部改正が可決されたことを受け、今年9月からの使用料導入に向けた、新たに公民館使用に係る手引きを作成し、市民説明会の開催や券売機の導入等を進めてまいります。

次に、令和8年度の施設の維持管理につきましては、貫井南分館、緑分館及び貫井北分館のエレベーターについて修繕を実施いたします。また、公民館全体に新たに防犯カメラを設置し、子どもの居場所としてもこれまで以上に安心して御利用いただける環境を整備してまいります。

以上が、生涯学習部各課事業に係る令和7年度総括と令和8年度の展望となります。よろしくお願いいたします。

笹井議長

ありがとうございました。

何か御質問等、ここをもう少し詳しく聞きたいとか、そういうのは、ございますでしょうか。

小林委員

小林です。

地域部活とかスポーツ地域展開みたいなのがあったのですが、具体的には何か、その辺はもう何か、詳細は言えなかったら言えないで、言える範囲でいいのですけれども、どの程度まで進んでいるのでしょうか。

濱松生涯学習課長 生涯学習課長です。

学校部活動の地域展開につきましては、昨年度、委員会から、地域連携の在り方ということで答申をいただいております。今年度以降はその答申に基づきまして、今後どのようなことを進めていくかというのを、どういうことをしていくのかというのを今、調整をして、今後の体制を含めて、皆さんに御報告をしていくというような段階でございます。

小林委員

分かりました。

濱松生涯学習課長 具体的には、スポーツの関係につきましては、去年、バスケットボール部の実証実験というところをしておりますので、そういった実証実験を踏まえた新たな実験活動であるとか、あとは、ほかの競技団体の方に御協力をいただいて、今後の参考となるようなモデルケースというのも作成していく準備というのを進めていければというふうに考えているところでございます。

以上です。

小林委員 ありがとうございます。付言するというか、あれなのですけれども、剣道なんかもそういうのがあったりしますし、あと、文化的な面で、例えば演劇部みたいなのが今、実験的に緑中で市内の中学生を集めてやったりもしていますので、文化面でも、例えば演劇なんていっぱい人がいないと成立しないわけですし、そういったものも含めて、スポーツに限らずというところで文化的なもので、小金井市、特徴があるのだったら何かやってみてもいいのではないかな。

例えばインターン部みたいなのか、ボランティア部みたいな、地域貢献部みたいな。今、小金井北高さんでそういう部活もあるみたいなので、そういうのも、ぜひ中学校のうちに、地域に、という声が学校運営協議会でも出ていまして、ボランティア、何かもうちょっと声かけたほうがいいよね、中学校に、みたいな話がこの間、緑中の運営協議会でも出ていまして、どうやったらいけるだろうねという話もちょうと出ていますので、出すほうの中学校の確保もあったりとかしますし、あれなのですが、ようやく地域に出したがつている先生が、生徒会に来るみたいな感じが出てきたので、ぜひそちらのほうも目線を入れていただければなと、文化的な面もよろしくをお願いします。

笹井議長 ということで、御検討よろしく願いいたします。
ほかにどうでしょう。よろしいでしょうか。
小林さん。

小林委員 すみません。最近ちょっと人手不足とか高齢化で、施設の管理とかそういうものを見る、いわゆる専門職の市の職員の方というのがすごく減っているとか、そういうのが難しくなっているというのをニュースで聞くのですが、小金井市の場合はあれですか。こういう

のを見ておいてくれとか、ああいうのを見てくれって、なかなか見てもらえないとか、維持管理に関して課題が出たりはしているのでしょうか。

要するに、お金がないということはよく分かっているんで、いわゆるそれを事前に察知したりとか、この辺やばいよみたいなのが事前に分かっているとか、突然といっても、確かに運・不運もあるので、そこについては何も言わないのですけれども、今、世間的なあれを見ると、維持管理、設備のそういうのを見る方がすごく減っている。で、外部業務委託しているのか、それとも、市の職員の方が見ているのか、もしくは、チェックするのに一々発注して見てもらわなくてはいけないのか。そこで予算がまた絞られているのかという。構造的な課題としては、どういうふうに受け止められていますか。いきなりで、すみません。

笹井議長 よろしくをお願いします。

平野生涯学習部長 市の職員、いわゆるこの我々みたいな一般事務以外に、いわゆる土木技術職員とか、そういった技術職というのが、ある一定数いるのですけれども、以前は、市のそういう土木技術とかという職員、いわゆる道路の補修とかというのは、市の直営で市の職員がやっていたのですけれども、もうここ何十年かの間で、割とそういうのは、委託のほうへ出してきて、だんだんその技術職員という人数が減ってきているような状況があります。また、そういった技術職員というのが結構そもそもの総数が減ってきている中で、各自治体で取り合いみたいなのが起こってきていて、なかなか採用ができないみたいな、そういう現状もある中で、災害なんかが起こりますと、やはり一番最初にその技術職員が現場に行くというようなことがあって、技術職員が不足して、なかなかそういう対応が取れないみたいな、そういう報道が結構出ていたりします。

今度、我々みたいな箱物の施設みたいなものというのも、これはどちらかというと、そういった技術職員というよりは、我々はもう長い間、委託とか指定管理を出しておりますので、そういった部分で不都合等があれば、そういった業者等から我々のほうにも報告が入ってきて対応するというのが、ごく一般的な内容になっていますので、職員として、その技術職員が不足してきて、なかなかそうい

うのがうまく回らないということは、あまり現状ではなくて、どちらかというところ……。

小林委員 とすると、こちらのお金の問題で、本当は何回もチェックしたほうがいいけれども、そこはちょっと回数を減らして最低限みたいなところでやらざるを得ないというところの中での設備の維持の難しさみたいな。

平野生涯学習部長 施設全体は、市の中に、建築営繕課という課がありまして、建築営繕課というのは、全施設を1年間チェック、技術職の目として、建築技術職なので、その施設を見る、一級建築士の資格を持っていたりするような職員がいるのですけれども、そういった職員が、全施設を見て、これはこういう年度で補修をかけたほうがいいのかというのを一覧として出していますので、そこは、現場、現場で、指定管理者などが見て、これ不都合が出ているよというのはまた別に技術職としても見てはおります。

小林委員 小学校のやつとか全部そういうのでやられているということですね。

平野生涯学習部長 そうです。

小林委員 設備のほうに関してはそうか、やっぱり委託の。

平野生涯学習部長 そうですね。

小林委員 お金の問題ということですね。

平野生涯学習部長 どちらかといったら、そういうことです。

小林委員 ありがとうございます。理解のために伺いました。ありがとうございます。

笹井議長 ありがとうございました。
では、この議題については、この辺にさせていただきたいと思
います。

続きまして、3番目、社会教育関係団体への補助金交付についてです。

事務局のほうからお願いいたします。

最所生涯学習係長 事務局です。

資料3-1を御覧ください。本年度の社会教育関係団体への補助金交付予定一覧でございます。

社会教育関係団体につきましては、補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ社会教育委員の会議の意見を聞いて行わなければならないということで、社会教育法に定められておりますので、議題とさせていただきます。

実際の補助金の交付につきましては、小金井市社会教育関係団体補助金交付要綱に基づき行っております。補助の対象となる団体は、社会教育関係団体として登録してから1年以上の実績があり、かつ構成員の2分の1以上が市内在住、在勤と、または在学の団体ということになってございます。

1団体につき5回の補助の上限となっております、今年度につきましては、2団体より申請がありました。事務局で内容を精査した結果、いずれの団体についても、補助金の支給要件を満たしておりますということになりますので、今年度当初予算額12万円に対しまして、補助申請額5万円となっております。

当該補助金につきましては、昨年度の会議の中で、様々な意見をいただいているということは承知しておりまして、今年度におきましては、予算の規模であったり、交付要綱の見直しを含めて、本会議で御意見をいただきながら、次年度以降の補助金の取扱いについて整理をしていきたいというふうに考えております。なので、この本会議の令和9年度の補助金については、皆様の意見をいただきながら、交付要綱の見直しを進めていきたいというふうに考えております。

また、あわせて、下の段、小金井市小中学校PTA連合会につきましても、補助申請が出ております。こちらについては、小金井市補助金交付規則について基づき交付しているものです。なお、小金井市スカウト協議会については、団体より今年度の補助金は不要ということがありましたので、ここには記載してございません。

説明は以上です。

笹井議長

ありがとうございました。

この資料3-1で、まず、この今年度の補助金交付をしていいかというか、社会教育委員の会議の意見を聞かなくてはならないという法律上の規定があるので、それが一つの論点というかテーマなのです。ここに書いてあるとおりで、交付予定額ということで、上のほうの2団体合わせて、5万円。それから、下のほう、PTA連合会の15万円ということになっておりますが、これにつきまして、もし何かお気づきの点がありましたら、いかがでしょうか。

小林委員

すみません。P連はどういう内容で来ているのですか。

最所生涯学習係長 事業内容ですか。

小林委員

はい、何に使う、多分、領収書とか何か、去年の実績でもいいのですけれども、最近何やっているのか。

最所生涯学習係長 事業内容としては、いわゆる児童生徒の健全育成、環境整備というところで、交通安全運動とか、研修会の実施等、そういう内容で来てはございます。

小林委員

では、講演会のお金とか、そんな感じですね。

最所生涯学習係長 そうですね。

小林委員

学びを開催しているみたいな感じで理解しておけばいいですか。

最所生涯学習係長 そうですね、そういう部分もあります。

笹井議長

実はその論点の2番目ですけれども、昨年度はちょっとオーバーして、その前からオーバーしているのです。要するに、申請額がちょっとオーバーしてしまって、どうしようかという話になったのですが、それは額の問題もありますけれども、承認を得て流用することに対応したのですよね、三浦館長とかで、間違っていたらごめんなさい。そういうのがあって、一応こういうときにはやはり

公募方式というか、公募というか、公募方式ですよ。要件としては、社会教育関係団体に登録してから1年以上の実績があり、かつ構成員2分の1以上が市内在住、在勤または在学の団体というふう
に要件化されてはいるのですけれども、公募すると、わーっと応募したときに、予算が少し足りなくなったりとか、そういうことが起こり得る、今年度は、幸か不幸か、交付5万円ということで予算額を下回り、それは、そういう意味では、何も問題は生じてないのですけれども、こういう公募方式にすると、どうしてもそういう問題が起こってしまいますが、それについて、もし、これまでの経験も踏まえて何かいい知恵といたしましょうか、御意見等ありましたら、ここでお出しいただきたいということで、いかがでしょうか。

小林委員 交付実績が少ないところから推薦するというのがありますよね。

笹井議長 ええ、そうですね。優先順位をつけて、落とすという、切っていくという話も、優先順位が高いものから、つけていってというものもあります。何というか、一律に5%削減みたいな、そういうやり方もあるのかな。

小林委員 みんなでこう……。

笹井議長 そう、みんなで。もちろんちゃんとした団体で、ひどい場所はひどい団体はちょっと除いたりとか、それなりの団体を全部足し算してオーバーした場合は、5%削減とか1割削減とか、そういうやり方もあります。優先順位をつけて、ここは実績がこうだからこうだといって、申し訳ないけれどもそうじゃないところは、今年は勘弁してくださいというやり方もあります。そういうので、もし、何かいい収め方というか、可能性としては必ず……。今年度はたまたま、こういうふうになりましたが、オーバーしてしまっただけという可能性はあるわけです。

その辺は、どういうふうに考えたらいいのでしょうか、ということ
を事務局の御説明はされているのではないかと思いますけれども、
どうぞ。

最所生涯学習係長 すみません、事務局です。

議長のほうから御説明あったとおり、過去２年間ほど、予算１２万円の補助金額に対して、申請のほうが多かったということがあります。たまたま今回、たまたまと言っていいのか分らないですけれども、補助金以内に収まったというところでした。過去２年、補助金額が多くなってしまったというところで、いろいろどうしようかというようなことを、この会議の中で議論していただいて、当時は予算の増額というような、行政側でいうと流用というような予算増額の手段をもって予算を増額して、皆様のほうに補助金を申請額どおり交付をしたというような経緯がございます。

ここで、予算を増額するというような判断はしたのですが、一旦その平成１６年に、この補助金の提言書というものも出ております。そういった内容を踏まえて、今年度、どこかのこの会議の中で議題にさせていただいて、我々事務局案をお示ししながら、皆様のほうに、来年令和９年度の来年のこの補助金の交付のときに、ちゃんと決まるような形で、この１年かけて整理をしていきたいというふうに考えておりますので、この会議以降、またこちらのほうから議題を設定させていただきますので、その節はよろしくお願いいたします。

以上です。

笹井議長

ありがとうございました。そういうことで、また後日議題にさせていただけるということなので、こういう、今日は問題提起だけで、皆さん考えておいてくださいというのもちよっと失礼な言い方なのけれども、よろしくお願いいたしますと思います。それで、今回の令和８年度の交付申請に対しての交付予定、補助金を交付することについては、このとおり交付してよろしいですか。もし何かありましたら……。

御承認をいただきたいと思います。

（ 拍 手 ）

笹井議長

ありがとうございます。

では、この案のとおりで、申請については対応をしていただくということで承認をいただきました。ありがとうございました。

次に、４番目になりますけれども、地域文庫補助金交付について

であります。

館長から、説明をお願いします。

三浦図書館長 それでは、御説明させていただきます。図書館で所管をいたします地域文庫補助金につきましては、社会教育法第13条の規定によりまして、社会教育委員の会議の御意見を伺った上で、交付決定等をするよう定められているところでございます。

図書館では、小金井市地域文庫補助金交付要綱に基づきまして、地域の自治会や町内会、PTA有志グループなどで組織的に設置され、運営する子ども文庫に対しまして、補助対象経費の2分の1を限度として、上限3万円を補助金として交付したいと考えてございます。令和8年度の地域文庫補助金につきましては、小金井市子ども文庫サークル連絡会から申請が出てございます。小金井市子ども文庫サークル連絡会は、地域で活動している文庫サークル7団体で構成されておりまして、子どもと本を結ぶという事業に対して補助金を交付するものでございます。この子ども文庫サークル連絡会では、例年、講演会や講座など大人から子どもを対象としたイベントを実施されており、その事業に対して本補助金を交付したいと考えてございます。なお、予算額と交付額は同額となっております。

以上でございます。交付予定額でございます。

笹井議長 ありがとうございます。

ただいまの御説明に関して、もし質問等ございましたら、お願いしたいと思います。資料4-1です。

鈴木委員 いいですか。鈴木です。

笹井議長 鈴木さん、どうぞ。

鈴木委員 これは、もう少し増やしてあげるとかということもできるのですか。今これ3万円ということで、小金井市子ども文庫サークル連絡会から3万円の申請があり3万円交付ということなのですけれども、これはもう少し例えば5万円の申請があつたら、5万円に増やすというような、そういう余裕はあるでしょうか。

三浦図書館長 図書館長です。

基本的には交付対象経費の2分の1というふうに考えてございますので、補助金ありきで事業構築というのはちょっと筋が違うかなと考えてございます。ちなみに、令和7年度の実績でございますけれども、支出予定額6万飛び575円でございますので、その半額程度を補助金として交付申請されたということだと思います。以上でございます。

鈴木委員 分かりました。

笹井議長 ほかにいかがでしょうか。

特になければ、そういうことで補助金交付ということで、我々としては承知したというふうにさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

それでは、次の議題、5番目ですけれども、都市社連協定期総会・社会教育委員研修会についてであります。

これについても、事務局に説明をお願いします。

最所生涯学習係長 事務局です。

こちらは、資料はございませんので、口頭で説明という形になります。

都市社連協定期総会・社会教育研修会につきましては、令和8年4月の18日土曜日、宮地楽器ホール大ホールにて行われました。小金井市社会教育の委員の方々をはじめ約150名来場されました。定期総会も無事終了いたしまして、幹事市としての役目を無事終えることができました。特に講演会等、笹井議長のほうには多大なる御協力いただき、誠にありがとうございました。金澤副議長におかれましても、会計というような立場におかれまして、1年間、職務、御協力いただき大変ありがとうございました。

ということで、私の報告は以上であります。

笹井議長 委員の皆さんにもいろいろ御協力いただき、本当に改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

それでは、次の議題のほうに行きたいと思います。6番目、令和8年度の会議等日程についてであります。事務局のほうから、御説

明お願いいたします。

最所生涯学習係長 事務局です。

資料５を御覧ください。こちら以前、２月の会議でお配りしているのですが、日程変更がございまして、そちらのため、もう一度配付させていただいております。

実は６月２９日月曜日１０時からということで、こちらのほうは７月管外視察を予定しておったのですが、議題の都合により、６月２９日に第２回の社会教育委員の会議を開催したいということで、よろしくお願いいたします。また、管外視察につきましては、調整の上、１１月もしくは２月というところにちょっと延伸ということで、よろしくお願いいたします。

もう１点変更というところにつきましては、下のほう、１１月、下から２段目、都市社連協第５ブロック研修会ということで、こちらの日程１１月と前回明記させていただいたのですが、１１月１５日日曜日、萌え木ホールで実施予定です。

小林委員 大丈夫なのですか、選挙じゃないですか、市長選。いや、皆さん大丈夫なのですか。

最所生涯学習係長 検討して、もしできそうであれば改めて周知をさせていただきます。一度確認します。

小林委員 僕が心配する話じゃないのですけれども。

最所生涯学習係長 可能な限り私ども頑張りたいなと思っておりますので、日程、開催可能かどうかにつきましては、再度、周知させていただくというところで、一応、萌え木ホールを今この時点で確保しているというところもありますので、できればちょっとこの段階で進めたいと思います、という、なのですけれども、一応こちらのほうが、これからこの後の議題に関わりますブロック研修会の日程となりますので、そちらのほう、よろしくお願いいたします。

日程の関係については、以上です。

笹井議長 もし何か御質問がありましたら、お願いします。

これで、取りあえず進めさせていただきたいということによりしくお願いしたいと思います。

それでは、次の7番目ですけれども、都市社連協ブロック研修会の内容について、お願いいたします。

最所生涯学習係長 では、私のほうから説明させていただきます。

資料6を御覧ください。こちら令和7年度都市社連協ブロック研修会の実施内容というふうに書いております。こちら令和7年度にブロック研修会で各ブロックが実施した内容ということになってございます。

今回令和8年度、令和7年度につきましては会長市ということで、都市社連協、1年間職務を全うしたというところを今お話しさせていただいたところなのですけれども、令和8年度につきましては、ブロック幹事市ということで、ブロック研修会をこちら小金井市のほうで主催をして実施をしなければならないということで、ところどころ、私、会議の中で、御説明させていただいたところなのですけれども、実は先ほど11月15日というところで、萌え木ホールで、ブロック研修会の幹事市として、研修会を実施する必要があるということになってございます。

今回、ここで議題のほう、何をやるかというところを少しお話し合いたいというようなところがございまして、その参考資料として資料6を配付させていただいております。こちら、去年、昨年度は調布市にて、皆さん参加された方もいらっしゃると思うのですけれども、演劇というようなところでやっておりました。調布のところです。駅前のほうで演劇をされていたというようなことで、記憶してございます。

通常、研修会というところで、例えば、こちら資料6にあるとおり、講演会であったり、地域の方の事例発表であったりというような、そこに各ブロックの方を交えて、グループディスカッションしていただいて、グループ発表をして、最後、感想を言って終わるというような内容になるかなというふうに考えているところなのですけれども、一応こういうようなことをこの社会教育委員の会議の中、皆さんのほうに詳細を知っていただきたいというところで、御提案という形になってございます。

この予算がありまして、5万4,000円、ブロック幹事市のほう

には、都市社連協から現金で配布されていますので、講師の方々とか、消耗品、会場費、そのあたりを5万4,000円の中でやりくりをしてやっていきたいというふうに考えております。

スケジュール感としては、この後、一旦ちょっとここで頭出しさせていただいて、次6月29日のときに、皆様のほうに、これが宿題と言ったらあれなのですけれども、企画書みたいなものをお配りして、何か書いてきていただいて、6月29日のときに、こんなのどうでしょうみたいな発表をしていただくというようなことで、私も事務局としては考えております。6月29日のほうに、これがいいのではないかというようなことになりましたら、次の8月21日までに内容の精査をして、10月22日の社会教育委員、こちら第4回の会議の際に内容の精査というところ、最終確認11月15日、市長選とかぶってしまったのですけれども、このあたりで実施をしたいというふうなスケジュール感を持って進めていきたいというふうに考えておりますので、皆さん御協力のほどよろしく願いますという形で、事務局の説明は以上となります。

笹井議長

ありがとうございました。

御承知のとおり第1ブロックから第5まで併せて、昨年度は小金井が全体総括で総会等をやったのです。今年度は一応、幹事市は下りただけけれども、ブロックの幹事になっていて、第5ブロック、1から5番目の第5ブロックの幹事になっていて。そういう意味では、ブロック内の社会教育委員さんが参加して研修を受けていただく上で、適切なというか面白いといいますか、有意義なというか、そういうものの内容を小金井市が提供する。どういうものかいいでしょうかという御質問というか、御提案だったのです。本格的には次回の会議でやるので、ちょっとどういうのがいいのか考えてきていただきたいというのが、協議の内容なのです。ということで、これは時間的には、どのようになっているのでしょうか。

最所生涯学習係長 時間的には、大体が2時間ぐらいかなというふうな、去年私も実は調布の演劇は、演劇は多分1時間ぐらいやった後に、その後、グループワークでした。

笹井議長

グループワークしましたね。

最所生涯学習係長 その後、休憩を挟んでグループワークをして、少し発表をして
いただいて、それで終了ということになりますので、2時間程度と
というような内容なのかなというふうに考えております。

笹井議長 あれはすごく面白かった、インパクトがあって。だから、何とい
うか、本当に有意義なそういう研修会になるように考えていただき
たいと思います。それで、私の経験、本当にこれは個人的な意見な
のですけれども、これまで、都市社連協、いろいろなブロックの人
が研修会に来て、みんなで意見交換するケースもあるし、時間的に
はちょっと短いかなと思っているところがあって、何かグループワ
ークみたいなものを組み込んで、ちゃんとした議論ができるような
プログラムがいいのかなと、個人的には思っています。ただ、皆さ
んいろいろお考えがあるから、演劇をやりたいという人もいるかも
しれませんけれども、そういうのもちょっと構想して、構想を練っ
ていただいて、事前になってから、そのフォーマットというか、ど
ういうことを企画しますみたいなフォーマットを送っていただける
のですか。

最所生涯学習係長 そうですね。企画書というところで、今御覧いただいている内
容のところをちょっと埋めていただければというような、イメージ
的にはそういう内容で、テーマというところから、令和8年度は、
ちょっと今すぐ出てこないのですけれども、都市社連協統一テーマ
というものが一応あるのです。そちらを踏まえた形で、我々のテー
マ、議題と内容というのを考えていただくのが「表題」といったと
ころになります。「方法」というところで、講演会方式なのか、演
劇はあまりないと思いますが、演劇上演なのか、あとは例えば、私
どもが12月にやったとき、パネルディスカッションというような
ことをやっていただいたのですけれども、そういうような事例発表
を踏まえた形の発表なのかというようなところがあって、その後、
基本的にはグループ討議、グループディスカッションというところ
が出てくるのかなと。最後、グループの発表で終わるというような
内容がメインです。そこが今ここに資料6だと、「方法」というと
ころになっている。そういうような形で進めたい、あとは、内容で
す。具体的に内容をどうするのかというところを記載しております

ので、こちらの内容を埋めていただくような企画書のほうをあと提供する予定になります。

小林委員 テーマだけ先にちょっと。

最所生涯学習係長 令和８年度のテーマですか。

小林委員 はい。

最所生涯学習係長 都市社連協のテーマということでよろしいですね。今ちょっと確認いたします。すみません。

小林委員 というか、結構いい人になると、すぐ埋まってしまうのですよね。もう既に埋まっているかもしれないし、この人を呼んできて、いろいろワークをやったら面白いだろうみたいなのがあるのですけれども、逆に空いている？ というのを聞かないと、あれですよね、結構焦って、今聞いて焦りました。

藤森委員 今、笹井議長がちょっと言っていたのですが、基本的には、後半はグループディスカッションという方向がいいなと思います。

笹井議長 個人的な意見です。

藤森委員 ですね。僕もそのような感じがいいかと思っていて、テーマがあって、企画書を書いてくるのだったら、ある程度、枠組みは決まっていたほうがいいかなと思ひまして、前半が講演なのか、何かパネリストみたいな人が来て、何かおしゃべりした後に、それを基に、グループワークかグループディスカッションなのかという感じで、１時間・１時間ぐらいな感じなのですかね。それをイメージして企画を立てればいいのか。

小林委員 そういう考え方が考えやすいのだったら、それでやってきたほうがいいかなという感じだと思います。あまり先に型をはめてしまうと、ちょっと何かあるかもしれないので、多分、議長おっしゃった……、小林です。ごめんなさい。

しゃべったとか、何かほかから聞いて、それぞれ意見交換したという参加感みたいなものがあると満足度が高いというのは、多分よく勉強会とか、そういうがあるので、だから何か一方的に聞いているのではなくて、自分も参加して、何かちょっと影響を与えたりとか、話を聞いてもらったりとか、また、こちらも影響を受けたみたいな、交互のやり取りがあると、とてもいいよねとか、そういうやり取りをどうやったらつくれるか、どういう場をつくれるかみたいなことを考えてくればいいのかなという気はちょっとしているのですけれども。

笹井議長 調布の場合は演劇を題材にしているのですね、非常に珍しいケースなのです。演劇するその俳優さんもプロ並みなので、すごく上手だったのです。感心して見ていて、ですから、いろいろアイデアがあると思います。御自由に考えてきていただきたいと思います。

最所生涯学習係長 「わくわくが広がる共生のまちづくり ～対話と学びが奏でるハーモニー～」 。こちらが令和８年度の統一テーマになります。

金澤委員 メールで送っていただけますか。

最所生涯学習係長 企画書の内容を含めて送らせていただきます。

金澤委員 すみません、金澤です。予定をいただいたときから既に６月２９日に予定あり欠席になってしまって、申し訳ありません。表につきましては、いただいたら、宿題として対応し、送りいたしますので、６月２９日当日は、協力というかできなくて、どうもすみません。皆さまのお考えには何でも賛成ということで、精進したいと思います。本当にすみません。以上です。

笹井議長 ありがとうございます。
では、中身だけちょっと作って、事務局から発表するということ
で。

金澤委員 もちろんです、はい。最所さんから。

最所生涯学習係長 私のほうが代わりに説明いたしますので、よろしくお願いいたします。
します。すみません。

金澤委員 ありがとうございます。

笹井議長 ということで、よろしくお願いしたいと思います。
どうぞ。

鈴木委員 鈴木です。
分からないことがあって、それを聞きたいなと思ったら、それは、
窓口は最所さんに聞けばいいですか。

最所生涯学習係長 私のほうに言っていただければ、質問を含めて皆さんに共有さ
せていただきますので、よろしくお願いいたします。

鈴木委員 分かりました。

笹井議長 非常にうまく、うまくというか円滑に会議が進んで、今日の議題
は以上なのですけれども、全体通してもし何かお気づきの点があり
ましたら、お願いしたいと思います。
鈴木さん、どうぞ。

鈴木委員 鈴木です。
小林委員から出ていたボランティアの話です。全部の中学校を知
っているわけではないので、お世話になっていた南中学校の例を挙
げますと、今年の4月に行われた貫井南センターのなかよしまつり
には、40人のなんとボランティアが来てくれて、ということで、
これはもう例年に比べたら相当多い数字です。実際5月16日に、
今度、四小の運動会がありまして、ここへもその南中からボランテ
ィアが毎年行っているのですけれども、何とこの四小の運動会では、
中学生ボランティアが90名来たそうです。

それで、今まで、いろいろうちの子も在校中に、ボランティア、
ボランティアというような声かけもしていましたけれども、なかな
か十四、五人、集まってもそんな程度だったのですけれども、それ
も毎回同じような子どもが来るというようなことだったのですが、

今回は子ども同士で声を掛け合ったそうです。僕が行くから君も行かない？ みたいな、遊びに誘う感覚、だから、誘い方として、学校で「まなびポケット」とか、ああいったもので周知をして、ボランティアありますという形で周知をして、はい、それで終わり、ということではなくて、学校も何回も声をかけるというふうにしているのですけれども、うまくもう中学生ぐらいになってくると、子どもたち同士で声を掛け合っていないかというような形を促したほうがいいのではないかなと思います。

ただ1点問題もあって、僕も参加しているというか、加わっている自治会に、地域行事に何度も、中学生のボランティアを入れてはどうですかということで、今、一中に異動された星野先生、副校長だった星野先生が非常に熱心にボランティアを子どもたちを地域に出そうということをやっていたら、それが花を開いてきたというようなこともあると思うのですけれども、自治会に何度言っても、できるだけ知った顔でやりたいからとか、あとは、人数は十分足りているのでというようなことで、働きかけても、ボランティアを受け入れないという団体があることも事実です。

それは、それぞれの、もう長くやってきた方々のお気持ちも分かるので、どちらが正しいという話ではないと思うのですけれども、この中学生がボランティア、地域に参加するということは、本当に地域活動が高齢化してでしよし、なかなか担い手がいなくて、その世代が全然接点がないというような状況が発生していることを考えると、地域の行事にこのボランティアが参加するというのは、とてもいいことだと思いますので、生涯学習課の扱いでもいろいろあると思うのですが、こういう扱いの中で、この自治会とか、そういった地域の団体のほうにも、積極的にボランティアを入れてもらいかがですかとか、ボランティアを入れると、こういうことがありますというような声かけというか、そういったこともしていただくと、逆に、私たちが幾ら言っても、もうはるかに上の世代の人たちで何年もやってきた人たちなので、なかなか言うことを聞いてもらうというか、そういう状況にならないのですけれども、役所のほうからも一言お話しいただくと、より円滑にこういったことが進むのではないかなと思います。

以上です。

それとあと、お尋ねしたかった図書館の事業で、すごくいいと思

います。短時間の見守りサービスを始められたということで、これも私の周りにいるお母さんからすごく声が多かったです。子どもたちが行って大きい声を出すと迷惑じゃないかとか、選んでいるうちに子どもがどこかへ行ってしまっただ探すのが大変だ、書架の陰に隠れていてとか、そんなことがあったので、これはどなたかが何か見守りしてくださるといって、保護者の方も安心して本を選べるし、図書館の利用率の向上にもつながるのではないかと思います。

それから、外国語の本もこれもすごくいいと思います。置いて終わりではなくて、外国の方が読み聞かせをしてくださるといのは、本当に何というのですか、今、中学校でも起きている問題ですけれども、英語学校、子どもの英語スクールに行っている子どもとそれから行っていない子どもとの力の差が歴然としてしまっ、ある中学校の長く英語を教えている先生からの話だと、もう中学校へ入ってきた段階で、その差が歴然としてしまっている、もう全然、新しく英語を中学校に入って学べて楽しいという子どもが年々減ってきているそうです。それはなぜかと言えば、もう小学校の4、5年ぐらいから評価がつくことになっていて、力の差がキッズ英語に行っている子とは歴然としてしまっている。もう全然つまらないし、グループ学習の中でも、例えば、ミウラが英語バリバリだからミウラにやってもらおうと言って、ミウラ君が英語上手なので発言して、ほかの子は絵を描いているみたいな、何かそんな状況もあるというので、こういった英語に早い時間から時期から家族で親子で触れるというようなことがあって、英語に興味を持ってもらえるというようなことがあるのであればいいのではないかなと思いました。私の理解がちょっと違っていたら、すみません。

以上です。

笹井議長 貴重な情報提供、ありがとうございます。

鈴木委員 ありがとうございます。

笹井議長 どうぞ、小林さん。

小林委員 いいですか、時間が、ごめんなさい。
ボランティアの件で、緑中は、健全育成ずっとやっていたので、

毎年やっているのですが、この間、自治会のお祭りに出てきてくれないかと、新規が来たと、ただ、あれなのです、もう飲物を売っているだけなのです。何のコーディネーションもないわけです。だからそうすると、行った子は、お祭りを見たし、まあやったけど、ぐらいいの話で、ちょっと地域の方も、実はそのとき、学校運営協議会で行ったのですけれども、ボランティア来てよ、と言って、それで終わってしまうのです。だから、そのときにウエルカムするとか、子どもたちがそこで何を発揮できるのかとか、要するにボランティアを呼ぶからには、彼らにも楽しんでもらいたいとか、意義を感じてもらいたいとか、なぜ呼ぶのかというところの効果みたいな、要するに何か、本当ちょっと言い方が悪いのですけれども、ひょっとしたら人手が足りないから人工（にんく）で中学生を呼んでいるのではないのかと、僕は思うときがたまにあるのです。

だからそういうのも含めて、ボランティアのコーディネーションというのが実は必要で、実はボランティアコーディネーター協会というのがあるのです。資格の2級、3級というのも試験があって、やっぱり来てもらうからにはウエルカムでまず迎えなくてはいいし、彼らにこれをやってもらって、これで何か発見してもらいたいなんて、ちょっと教育的なものとか、何か喜びとか、要するに彼らに対してボランティアに参加したことの報酬というか、意義みたいなものがやっぱり彼らも感じたほうが、また来ようという感じになるのです。

だから、そういった細かいコーディネーションとか細かい関係性みたいなもの、子ども同士で声を掛け合おうというのは、確かに本当にそれで、僕も放課後カフェで、やべえ、今週末のグリーンファイトオリエンテーリング、全然4人じゃん、とかいって、ごめん、声かけて、とかってお願いするわけです。そうすると、ばーっと集まってやるというのは、本当に僕も感じているので、それはそれで入れながらなのですけれども、結局多分、鈴木さんとか僕みたいな人とか、ほかの人でも多分そうなのですから、学校とちょっとつないだりとか、ボランティアのコーディネーションをする人が必要だよ。ただ、そのやり方は誰にも教わっていないよねというところがまた問題になるので、生涯学習計画にあるように、やっぱり人材の育成は大事ですよ、イベントをやるのはいいのです。イベントをやるのはいいのだけれども、長期的に育成をどうするというこ

とを、何かこの間、夏ぐらいからいろいろとやりたいという感じもちょっとします。予算獲得。要するに人材、計画立ててしまったのだから、育成しないとまずいですよね。

だから、すみません、11月の中身を考えるのもいいのですけれども、どうやったらそういう人たちが育ってくるだろうかと、そういう何か講座とか、そういうのを、いろいろなところでやっているのです。全国で。だから、何かそういうのを見かけたりとか、こういう人材が育ったらいいよねと、こういう人材が欲しい、要するに間をつなぐ人みたいな。そういうのも、例えばでもいいのですけれども、その地域で、そういう方、やってもらうには、じゃあ何が必要なのかとか、ということも考えたりとか、勉強もしたりとか、多分少し何かやっていかないと、天然物だけに頼るのはもう限界じゃないか、多少そういう素養のある人とか、アンテナ立っている人がもっとできるような、知識とか環境とかコーディネーションとかというのがあったほうがいいのではないのでしょうか、というのがあって、行政の出先は何かコーディネーターだと言い張っている人もいますのですけれども、いや、それをいきなりやれと言ったって無理だと思うのです。

そういった意味でも例えばなのですが、図書館とか公民館の職員の方も、そういうのはひょっとしたらもう1回学ぶ……、いや学ぶ必要がなかったらいいのです、別に、もうそういうマインドを持っているというのだったらいいのですけれども、何かいわゆる、館長は持っているのだけれども、それ以外の人は持っていないみたいなものもあるかもしれませんし、そういったことをちょっと考えませんかという提案だけさせてください。

以上です。

笹井議長

ありがとうございました。

外国のいろいろ生涯学習に関する論文とかを読んでいると、ティーチャーとファシリテーターは並列するのです。つまり、ティーチングというので、日本人は指導者と考えてしまうのだけれども、向こうはファシリテーションというふうに考えていて、ファシリテーション、コーディネーションというのが、やっぱり大事だというふうに考えているのです。そのプロという、ティーチャーはティーチングのプロなのです。ファシリテーター、コーディネーターは、そ

の両者のプロなのです。そういうものの育成も大事だと、外国の論文なんかにはたくさんあって、日本人は、学校教育がすごくきちん
と整備されているから、ティーチングさえ、要するに師範じゃない
けれども、学校の教育さえしっかりしていればもういいじゃないか
と思ってしまうところがあるのですけれども、実はもうそうではな
くて、いろいろな場面でコーディネーター、学校支援コーディネ
ーター、いろいろな場面でコーディネーターが言われていて、その
何というか、資質というのか、それこそ育成というのか、そうい
うのがやっぱり大事になっている、日本社会全体の課題ではないのか
なというふうに思います。

日本人の意識そのものが、ティーチングしていれば自動的に子ど
もはよく育つのだという、今どきそんなことを考えている人はいな
いかもしれないけれども、そういうふうに思い込んでいるところが
あって、実は、縦割り社会の中で、コーディネーションやファシリ
テーションが上手に入っていることが、ティーチングにとってもプ
ラスになるということが、今、恐らく小金井で求められているところ
だと思うので、むしろこれは教育委員会全体とか市全体の問題か
なと思うことがあります。

もう一つは、さっき鈴木さんがおっしゃったことに関連してなの
ですけれども、横浜市で、自治会・町内会を受講対象とする講座と
いうのが、各区ごとに、これは地域振興会でやっているのです。つ
まり、一般市民は入れないのです。自治会・町内会が出て来いと言
って、区内の、もうこれは義務、誰か出せという話になっていて、
その自治会・町内会の中の人をちゃんと教育するというのを地域
づくり、要するにボランティアです。ボランティアとして地域づく
りに貢献するような町内会・自治会になってくださいということを
横浜市は既にもう、五、六年前からやって、地域づくり大学校とい
うのですが、やっていたりするのです。

ですので、そういうのもやっぱりその自治会・町内会は、そこに
古くから住んでいる人が会長になって、それを新しく来た人は会長
になれない、ずっとそれこそ、その人が亡くなるまで続いてしまう
わけで、そうすると体質は全然変わらなくて、そこに食い込むよう
な、特に教育や学びの作用だと思いますけれども、そこで、そうい
う人を対象にする講座というのを、生涯学習課とは言いませんけれ
ども、地域振興の観点からそういうのがあっても、こともいいのだ

ろうなというふうに私は聞いていたので、これも、鈴木さんの話を聞いて思い出したので、多分、小金井でもそういうことがあると思われだろうと思います。何かそれを行政によって対応策があるのかなと思いました。すみません、私がしゃべっては申し訳ないですけども、どうぞ、ほかに、もし何か全体として、あるいは、その他で何かありましたら、まだ時間がありますので。

どうぞ。

渡邊委員

一言だけ、すみません。ボランティアのことなのですが、私は、最近、まちを美しくする運動みたいなもの、あちこちで、市内でごみを拾う毎月1回、そういうふうにやったださっている、まち美化の方でしょうか、そういう方がいらして、一緒にちょっと活動させていただいたりしているのですけれども、そこに小学生、今度中学生になったのかな、第三小学校のお子さんが来て、今、緑中になっていると思うのですが、その方が、家族を連れてというか、参加されていて、自分と一緒にごみ拾いをしたいということで、お子さんのほうが言い出して、1人じゃというので、家族の方も一緒にやっているのですけれども、その中でちょっとお聞きしたのが、すごくすばらしいなと、子どもさんがいらしているのは1人で、ほかの方は割とお年が上の方が多いのですが、すごくいい経験だなと。私も自分でやってみて思ったのですけれども、すごく楽しみにして、今もそれがあるかどうかは分からないのですが、ボランティアカードに、はんこを押してもらえるというので、それを楽しみにしている、今もあるのでしょうか。

そういう御褒美の何か代償ではないのですけれども、たったそのボランティアカードに、はんこを押すということが、とても子どものやりがいを与えているのだなということを感じたりとか、ささやかですけれども、学校の中にも、みんなでそういうのを集めて何したんだとかと話をする機会があるのかどうかは分からないのですが、小金井市としては、とてもいい制度といいですか、子どもたちが参加するに当たって、いいなと思いましたし、1人でそこに参加しているその子もすばらしいなというふうに思ったのですが、やっぱりまち全体が、自分たちのまちのために何かしようとか、町会のためにと、まちのために何かしたいという、そういう自然な思いが、ボランティアカードに、はんこを一つを押してもらおうというような

中にも含まれているのかなというふうに思って、とてもいい、私はすばらしいなと思って、参加させていただいた感想なのですけれども、これからも続けていってもらいたいし、多くの子どもたちに、そういう思いで参加してもらえるようになるといいなと、そんなふうに今、思いました。すみません。紹介です。

笹井議長 ありがとうございます。子どもの頃からそういう体験はいいですよね。まさに自己肯定感を育むことに直接につながる。

小林委員 子ども1人で行ったらちやほやされますもの、絶対、偉いねとか言われるから、もう自己肯定感が爆上がりですよ、その子は、いい場所を見つけましたね。

笹井議長 ありがとうございました。
ほかにどうでしょうか。どうぞ。

池田委員 ボランティアをちょっと掘り下げてしまうかもしれませんが、何か皆さんがおっしゃっていることを聞いていて、最近社会とか会社も報酬型が多くて、報酬型が果たしていいのか分からないのですけれども、性善説とかも崩壊してきている中で、中学生が、小林さんがおっしゃっていたように、中学生がボランティアに参加するというのは、すごく家と学校の外で学習するという意味ですごくいい場所だと思うのです。でも、ボランティアというとあまりクールじゃない、かっこよくないということで、そこで報酬形を持ってきて、何とか学校の高校受験の内申とかに反映ではないけれども書ければ、少し参加する人が増えるのではないかなと。

小林委員 でも、それは結構一因としてあります。

池田委員 ありますか。内申に書けますか、中学生で。

小林委員 内申書を結構気にして、最初はそれが入り口でいいのです。

池田委員 そうそう、入口で、体験して……。

小林委員 行ってみたら面白かったで。

池田委員 そうそう、だから、もうちょっとやろうかなみたいな、小学生はスタンプで、ラジオ体操のスタンプではないけれども、それで結構自己肯定感が上がるかもしれないけれども、中学生なるともうちょっと大人になっているから、何かもうちょっと目に見える何かが、内申にちょっといい感じに書いてもらえるかなとか、そういうことがあったら、もしかしたら参加する人が増えてくるかな、参加する人が増える呼びかけのそれはコーディネーターの問題で、分かりやすいですけども、社会教育課から派生して何か小林さんとかが何か組織つくってとかで……。

小林委員 いや、そんなものではなくて、このおじさんとか、このお婆さんがいるのだったら、取りあえず安心だなと思って来るのです。全く関係性がないボランティアのところに行くというのは、子どもたちが不安で行けない、逆に顔がつながっていないと来ないです。

池田委員 コーディネートする人がいたら、やっぱり本当はいいのか。

小林委員 その人はちょっと見たことがあるとか、市の何とかという肩書を持っている人だったら安心できるよねというのもあると思うのですが、何か例えば自治会のあれで、さっき言っていたけれども、聞いたことがないところで、何かそういうのを募集してもなかなかちょっと不安で行けないです。意義は感じて。だから、そこで知っているおじさんがいるとか、知っている……、あとは、友だちに声かけられたとかもそうですよね。だから安心できる、要するに、行ったら何か変な思いはしないだろうなというのさえあれば、何となくそういう気持ちがあれば来てくれるのですが、そこをどうやって取り除いていくかというのはすごく技が必要で、やっぱり顔をつなげないと駄目だなと、だから、放課後カフェに行ったり、あちらへ行ったり、あのおじさんだなと思ってもらって、来ない？ とやったら、ある程度ちょっとハードル下がるみたいなのところがあるので、結構難しいといえは難しいです。

 だから手間がかかるし、大人みたいにビラを配って通知したらすぐ来るか、それは来ないだろうなと、前に、中学生の意見表明とい

うのを、僕、全中学校に配って、やってみたのです。キッズ・カーニバルで。そのときに、やめよう、声かけ一本釣りをやめよう、本当に中学生が来るかどうかやってみましょうとやってやったのです。応募ゼロです。何もしなかったら。そのときはパネリスト全員集めてその場で反省会をやったのですけれども、なんで中学生が全然応募が来ないのか、興味を持たないのかということをいろいろ考えましょうというのをやったのですけれども、何もしなければゼロなのです。学校を通じて全員に配っても。そういうのもありますから、どれだけ大変やねんという、だけれども、多分顔がつながっていたら来るのです。だから、児童館も顔つながっているから、あそこには行く中学生がいる、多分公民館も多分つながっていたら行くのでしょう。だから、顔をつなぐということをもっと考えないと、地域はどんどん痩せ細っていくのだらうなということは、僕は最近すごく感じています。

すみません、小林でした。

笹井議長

なるほど。ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。何か発言されていない方で、無理にとは言いませんけれども。

伊丹委員

全然話違うのですが今、小林さんのお話に関係して、来週の火曜日から宮地楽器で、文化協会のフェスティバルをやるのです。そこで、写真の私の仲間が昨年7月にアフリカに行って動物を撮ってきたのです。それがもうたくさん、それこそパソコンの餌になったのではもったいないから、発表の場を考えようということで、協会員内で、私が全部、四、五十点プリントして、それを、できたら子どもたちに見てもらったほうが喜ぶのではないだろうかということで、教育委員会さんの願いをして、小中学校にチラシを全部貼らせてもらった、校長宛てに全部文章を作って、多分それで子どもがいっぱい来るだろうと思っていたのですけれども、今の話をお聞きしたら……。

小林委員

不安に思われましたか、ごめんなさい。

伊丹委員

それで子どもたちが来たら喜ぶだろうということで、ポストカー

ドをサービスで、ライオンとかカバとかキリンとかそれを、枚数を言ってしまうでもいいのかな、1,000枚ほど私はプリントしたのです。ちょっと苦勞しましたがけれども、それを配れば少しはと思ったのですが、今の話を聞いて、うわっ、この1,000枚をどうしようかなと、今の気持ちが。大人も欲しがらるだろうから、それは何とでも。

小林委員 展示会はまた別ですから、ボランティアとは違うので。

伊丹委員 まあそうなのですから。

小林委員 どうせでしたら、6月6日、7日、キッズ・カーニバルがあるので、もしあれだったら。

伊丹委員 余ればね。

小林委員 余ったらちょっと、私もいるので、逆に子どもに。

伊丹委員 余らないで、やりましょうか、私が。

小林委員 いやいや、外遊びのコーナーにいますので、何か正体不明のおじさんが何か動物の写真配っているぞというのだったら全然問題ないと思います。みたいな感じですよ。すみません、またお声かけください。6、7で、キッズ・カーニバルをやっているのです。

笹井議長 だから、今まで、体験したことのないことを体験するというのはちょっと躊躇するのだけれども、今の伊丹さんのお話はちょっと違うというのは面白いと思う子もいると思います。

伊丹委員 文化協会そのものがどちらかというと高齢者、どちらかというと、狙いは、日本舞踊であったり、それから、お年寄りの女性のフラダンスであったり、あるいは写真展であったり、工芸、1階の小ホールで美術工芸ですから、どちらかというと、子ども向けではなくて青年、青年よりか高齢者に近いところをターゲットにしているので、でも今回は、アフリカの動物だったら、これは、子どもたちに少し

ずつ浸透できるいいチャンスかなというような企画はしてみたので
すけれども、ちょっと心配になってしまいました。

小林委員 すみません、だから、本当は図書館の動物コーナーに貼れるもの
だったら貼りたいくらいの勢いですよね。動物コーナーに来た子どもが、
こういうのがやっているんだといって行くとか、だから多分。

伊丹委員 一応、チラシは市内の掲示板に全部貼りましたし、それから公民
館さんにもお願いして置いてありますし。

小林委員 それだけやっていれば、大丈夫じゃないですか。

伊丹委員 図書館さんにもお願いしてあるはずです。

小林委員 中学生のボランティアが面倒くさい、面倒くさいってごめんなさ
い、大変だと。中学生って難しいですよねという話だけだったので、
小学生だとまたちょっと違うと思います。すみません、不安をあお
ってしまいました。

伊丹委員 いやいや、そんな不安ないです。自信はあるのですけれども、子
どもたちを中心にと、できたらいいなということです。要するに、
会そのものはもう老人会みたいなものですから。

鈴木委員 鈴木です。
琴、あるじゃないですか。琴が、小金井の小学校とか中学校は、
音楽の時間に回るのです。それで、特段、琴の先生を呼んでくると
か、そういうようなことをやらない学校もあるのです。琴が来まし
た、琴に触れてみましょう、琴はこうやって鳴らすのですよね、そ
の程度で終わって、また、次の学校へ回っていく、次の学校にたま
たま保護者に琴の先生がいたりとか、地域とよくつながっている、
例えばその学校だったりすると、琴の先生を呼んできて実際に弾い
てみるとかということもあるのですけれども、もしその文化連盟で
したか、文化協会でしたっけ。

伊丹委員 文化協会です。

鈴木委員 文化協会にお琴の方がいらっしゃるのでしたら、そうしたらもう。

伊丹委員 全国組織の6,000名から会員がいる、ここの並びの正派邦楽会。

鈴木委員 きれいにできた建物ですよ、警察のそばの。

伊丹委員 そうです、はい。

鈴木委員 そうすると、何か変な話ですけども今、小林さんの話もありましたが、全くもう無接点のところよりは、学校にその琴で教えに来ている人だというようなことで、それがいきなり大きな接点になって、がたがたうまくいくかどうか分からないのですけれども、そんなものもあります。だから、学校で、職業体験みたいな形で仕事をしている人から話を聞くというようなのもあって、大体は、PTAの中とか学校に関係のあるところの人しか来ないのですけれども、写真とか、そういったようなカメラマンの仕事の人とか、そういった方も、学校とうまく、学運協とかCSとか、コミュニティ・スクールとかとつながってくると、その写真をこういう写真ですなんて見せると、今はもう本当に笑い話なのですが、「写ルンです」が、子どもたちで、はやっているのです。結局、僕の娘のスマートフォンにもデジカメというエフェクトがかけられるような感じなのです。だから、今のスマホで写したほうがはるかにきれいなものが写るのですけれども、子どもたちはデジカメの要は画質が悪いようなものに何かを感じて、僕は何を感じているのか分からないのですけれども、それからさらに「写ルンです」で、くりくり巻いてフィルムがありますよね、あれがまた何か子どもたちには響くみたいで、買ってくれと言われるのですが、ちょっと値段的を見てみたら3,000円するのです。

伊丹委員 その後また金がかかりますから。

鈴木委員 そういうことなのです。だから、本当に子どもたちは僕らが考えているより全然何というのですか、もう全く違う世界に生きている

ので、アプローチの仕方が違って、琴はこう鳴らすとかという話になると、そうするともうそこへ食いついてくる、写真はこんなふうにして昔は写真を撮ったんだよなんて、こうやって現像するんだという話になってくると、もう本当に見たことも聞いたこともない世界なので、1回目は大人がやってみせてやる必要というのはどんなこともあると思うのですが、そこから先は、もう子どもたちがどれだけ主体性を持ってやるかというところだと思うので、よくテレビゲームで、やめろ、絶対するな、と言っている、時間を制限したりしていても自分たちでその制限をクリアして、なおかつそのゲームの、やり方の攻略本みたいなのを買ってきて、もう、恐ろしく主体的に勉強しています。ゲームのことについては、ゲームとスマートフォンのことについては。だから本来の子どもの姿はあれなのだと思うので、きっかけだけ、何かそうやってうまく文化協会さんのほうでもつくれば、もう多分子どもは、いると思います。

小林委員 地域学校協働活動のコーディネーターっていますよね、だから、校長先生紹介するだけではなくて、そちらも紹介してあげたら、いけるのではないかなと今ちょっと思ったのですけれども、一応そういう立てつけですよ。

鈴木委員 管理職がどういう人かというのによりますね。

小林委員 コーディネーターは関係ないから。

鈴木委員 いや、その学校の毛色みたいなものは本当にもう管理職で大きく左右されるなと思っていて。

小林委員 コーディネーターが面白がってくれたら学校に売り込むよね。

鈴木委員 いや、それもその校長がどう言ったのか、あると思う……。

小林委員 すみません、だからそこなのですよ。

笹井議長 いろいろ。

小林委員 校長先生、こうやって、この人に逆らったら、多分この学校じゃなかなか校長できないぞって……。

笹井議長 もしほかになれば、池田さん、どうぞ。

池田委員 質問だけ、来月の質問なのですけれども、来月先ほどおっしゃっていた今度の11月15日の第5ブロック研修会の議題が、何か「わくわく」とか長いのがあって、それに対して、企画書を作るに当たって話し合いをするという感じですか。

最所生涯学習係長 そうです。来月6月29日の日程なのですけれども、先ほどの「わくわく」というようなところは、都市社連協の令和8年度の大きなテーマになります。そのテーマに基づいた、ひもづいた形で、我々5ブロックの幹事市として、研修会を5ブロックの方、武蔵野、府中とか、その辺りの研修会を皆さん社会教育委員をお呼びして、研修会の実施をするというところ、その議題をどういう内容でやるかというところを皆様に考えてきていただいて、これから企画書のフォーマットを送りますので、そこに書いていただいてというところを、来月そのテーマを、皆さんの発表を踏まえながら、決定していきたいというふうに思います。

池田委員 「わくわく」につなげないと駄目ですか。

最所生涯学習係長 大きな意味でつながっていればというところなので、それがそのままというような、そこに意識しすぎることもなく、やっていただいて構いませんので、あまり外れるということは、基本的に社会教育の考え方ではないので、そこはちょっと意識しながらも、その辺りの程度で考えていただければと思います。

池田委員 研修会イコール勉強会みたいな感じのものですか。

最所生涯学習係長 社会教育を題材とした勉強会というか講習会というか、そういうような講演会というか、そういうような内容になります。

笹井議長 自由に考えられるといいです。

すみません、北澤さん、どうぞ。

北澤委員 すみません。この冊子なのですけれども、これはどこに行けばもらえるのか、配っているのか、配っていないのかという、そもそものことなのですけれども、あと可能であれば、私が所属している団体にも、ちゃんとやりましたよという証拠ではないですけれども、ホームページにそれは載っているというのは知っていますけれども、何となく格好いいのになっているので所属団体用確認用にいただければ幸いです。また、一般の方はどこに行ったら見られるのでしょうか。

最所生涯学習係長 事務局です。

図書館や公民館であつたりというようなところと、あと6階の情報公開コーナーというところも設置しております。もちろん7階の生涯学習課にも設置をしているところなのですけれども、配布ということであれば、こちらのほうも御相談させていただいて、必要な部数をお送りしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

北澤委員 ありがとうございます。

笹井議長 ホームページにも載るのですか。

最所生涯学習係長 ホームページに今載っております。基本的にはホームページで御覧いただければということと、有償配布もする予定になっておりますので、市民の方からそういう問合せがあれば、有償頒布ということで、第4次のときは、700円というところで、第5次は決まり次第ホームページ等でお伝えする形に。

北澤委員 分かりました。

笹井議長 すみません。今日はいろいろな御意見、情報もいただけて、ありがとうございました。

今日の会議、提案というか宿題というか、そういうものがすごく多いのですけれども、皆さんの御協力を得て、次回以降検討していきたいと思います。

これでちょっと早いですがけれども、今日の会議をこれで終わりに
したいと思います。皆さん、どうもありがとうございました。

—— 了 ——